普及速報

令和５年９月９日

台風１３号接近に伴う大雨に対する対策について

鹿行農林事務所経営・普及部門

関東地方に接近した台風１３号の影響で、９月８日～９日早朝にかけて、計２７０ミリ（９月平年値の約 1.4 倍）を超える大雨となり、冠水・浸水などの被害が発生しています。

下記を参考に、被害を受けた作物へ対策を実施するようお願いします。

なお、品目別の相談については、鹿行農林事務所経営・普及部門(鉾田普及センター)までお問い合わせください。(電話 0291-33-6193)

１　水稲

・冠水時には、排水溝を切り排水を促すなど、速やかな排水に努め、稲体を水面上に露出させる。
・倒伏した場合は、未熟粒や穂発芽発生による品質低下が懸念されるため、適期収穫に努める。
・浸冠水、倒伏した稲は籾水分が不揃いで高水分となっているので、分けて収穫を行い、被害籾は仕分けして乾燥・調製を行う。
・籾は、成熟期を迎えても降雨等により水分含量が高くなるので、収穫時の損傷粒の発生を防ぐため、こき胴の回転数を遅くする。
・コンバイン収穫は籾水分が 25%以下になるのを待って行う。やむを得ず高水分籾を収穫した場合は、乾燥機へ速やかに張り込みを行うとともに、連続乾燥による胴割れの発生を防ぐため 18%程度で一時中断し、半日程度通風乾燥後に仕上げ乾燥（二段乾燥）を行う。

２　露地野菜

・圃場が浸水した場合は明きょを掘り、排水の妨げになっている畝や畔をきる等して排水に努める。
・風雨で茎葉が損傷し、病気が入りやすい状況となっているため、圃場に入れるようになり次第、速やかに殺菌剤を散布する。圃場に入れない場合は、費用対効果をよく検討する必要があるがドローンによる散布も検討する。殺菌剤を散布する際には、樹勢回復のため葉面散布剤も混用して散布するとよい。
・台風通過後は、風雨にあおられて害虫が圃場等を移動することがあるので、状況をよく確認し、圃場に害虫が移動してきた際には殺虫剤を散布する。
・圃場の乾き具合を見て、早めに中耕、培土、追肥、液肥の葉面散布等により、発根、草勢の回復を図る。

３　施設野菜

・施設内に雨水が浸水した場合は、排水ポンプ等を用いて速やかにハウス外への排水を図るとともに、換気を行って湿度の低下に努める。
・浸水した場合、根が弱るので、液肥の葉面散布や、果菜類では酸素供給資材の導入を行い、草勢の回復を図る。
・台風通過後の急な日差しによるしおれや葉焼けに注意し、必要に応じて遮光ネットにより光線を抑制する。
・葉物類については、出荷可能なものは傷んだ茎葉や土等をていねいにとり除き、出荷後の腐敗やトロケを防止する。発芽間もなく浸水したところは、浸水期間が長くトロケの面積が多い場合はまき直しを検討する。